

# News Letter

ニュースレター

2026.03 vol.132



オリマチ錦広場の夏祭り。錦二丁目に「会所」が復活。

## 特集◎ つながり・広がる 名古屋のエリアマネジメント

調査研究

建築系愛知16大学共通設計競技

「にぎわいの質を問う 久屋大通南エリアへの提案」

まちづくり支援

「TOWN/MONEY/WAY-MAKING TALK SESSION」を開催しました!

まちづくり来ぶらり

蕉風発祥之処

# つながり・広がる 名古屋のエリアマネジメント



「交通拠点」から「交流拠点」へ。地域が一体となって盛り上がる「金山まつり」盆踊り(アスナル金山)の様子。



「オリマチ錦」(令和4年竣工)の敷地内に作られた「会所(広場)」。江戸時代の町割りの特徴の一つ、密集した家々の中央にできる空地进行を再現。人々が出会える心地良い場所となっている。



錦二丁目の長島町通を通行止めにして開催される「みちにわマルシェ」。令和7年で6回目の開催となった。



金山南ビル



アスナル金山

「人・文化・芸術チャレンジ」(令和7年)。居心地の良い滞在空間と文化芸術コンテンツを設置。



## 隣の芝生は青い？ まちづくり団体の “ゆるやかなつながり”

地域にはさまざまなまちづくり団体が存在します。名古屋市に登録されているだけでも、現在約50の団体が活動しています。そんな中、昨年10月にあるフォーラムが開催されました。「となりのシバフ」(主催:名古屋市、共催:公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター)と名付けられたそのフォーラムは、隣り合って日々活動している地域のまちづくり団体同士が、ゆるやかにつながることで、より広域にまちの風景を変えるような取り組みが展開できるのではないかと、そのためにも「となりのシバフ」をよく知るとと

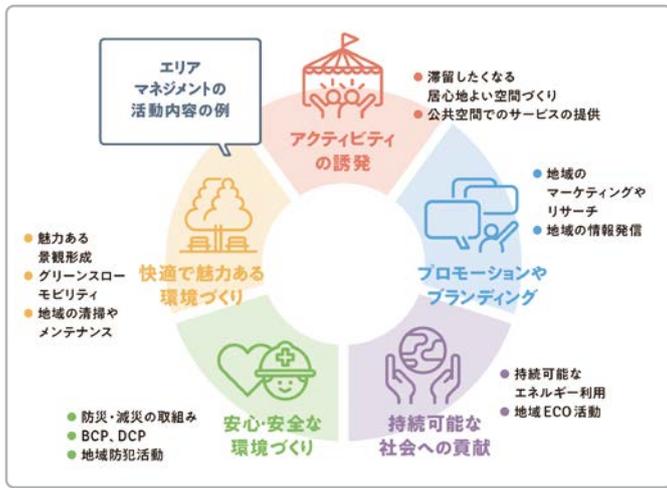
もに、自身のシバフの青さも再発見しよう、というものでした。

官民連携まちづくり施策の紹介、広島市のエリアマネジメントに関する基調講演、名古屋のまちづくりの動向の発表の後、名古屋市内のまちづくり団体や大学有識者も参加した座談会「となりのシバフとつながる未来」では、各団体間で、空間・時間・情報のシェアを推進することや、ゆるやかにつながりながら各団体・地域の個性を伸ばしていくことが大切だと話し合われました。

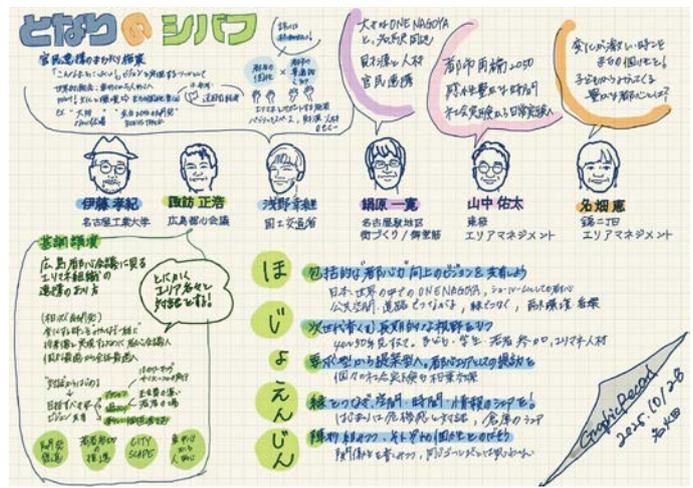
このように、今、「つながり」を重視したまちづくりに注目が集まっています。それは、個々の団体や官民が協力することで、まち全体を盛り上げていこうとする「エリアマネジメント」という取り組みに発展しています。

## 地域主体の取り組み エリアマネジメント

まちづくりにおいて、都市の成長から都市の成熟へとテーマが変化したことにより、「つくる」ことから「使うこと・活かすこと」へと重点が移ってきています。このような状況の中で「エリアマネジメント」という言葉を耳にする機会が増えてきました。エリアマネジメントとは、「特定のエリアにおいて、その地域に固有の社会課題の解決やエリアの価値向上を目的として、地域が主体的に行う取り組み」のことを言います。エリアマネジメントでは単なるイベント開催だけにとどまらず、まちを「経営(マネジメント)」する視点を持つことが大切とされています。要素としては、①エリアの



▲出典：国土交通省都市局まちづくり推進課  
「多様性を備えたクリエイティブな都市へと再生するエリアマネジメント」



▲「どこのシバフ」(令和7年10月開催)にて、まちづくりにおけるプラットフォーム的な体制の役割として、「ほ・じょ・えん・じん(補助エンジン)」がまとめられた。

共益が目的であること、②多様な主体が関わること、③持続的な取り組みであること、④地域の民間が主体であることが挙げられます。

名古屋市では、独自の制度「地域まちづくり」を展開し、“地域の力で地域を育てる”ことを推進してきました。これは、言葉は違えども、上記のエリアマネジメントとはほぼ同義の取り組みであり、名古屋市内全16区に広がり、商店街や住宅地などさまざまな地域でエリアマネジメントが実践されているということでもあります。

### わたしたちのまちで始まる変化

実際に名古屋で始まっている具体的なアクションを2つ紹介します。

#### 事例1. 錦二丁目エリアマネジメント

かつて繊維問屋街としてにぎわった「長者町」から、人々が働き、暮らす「あたたかなまち」への転換をめざし、地域主導のまちづくり構想に沿って再

開発が行われました。令和4年3月に竣工した「オリマチ錦」は、マンションとしての機能だけでなく、エリアマネジメントの活動拠点としても整備され、人々が自由に集まれるまちの広場「会所」とそこへ続く「路地」が再生されました。公共道路空間でのイベント「みちにわマルシェ」の開催や「喫茶七番」の運営など、ハード(広場・建物)とソフト(活動)が一体となったまちづくりを展開しています。

#### 事例2. 金山地区エリアマネジメント

名古屋市の交通の要でもある金山総合駅周辺のまちづくりの方向性として、名古屋まちづくり公社は令和4年1月に「金山まちづくりビジョン Playable Kanayama ～みんなが主役になるまち～」を策定しました。鉄道線路等によって分断されている南地区と北地区に連続性や一体感を創出し、金山地域に住む人・働く人・訪れる人の誰もが豊かで快適に過ごせるまちをめざしています。令和5年からは、金山駅周辺の地域と連携し、それまで親しまれて

きた「金山夏まつり」を、南北を一体で盛り上げる「金山まつり」として開催しています。この他にも、行政や地域のまちづくり団体などと連携し、金山地域の賑わいを創出する取り組みを行っています。令和7年には、金山のまちづくりに向けた新たな取り組みとして、名古屋市と「人・文化・芸術チャレンジ」を実施しました。

### さらにつながり、さらに広がる

名古屋都市センターでは、市民による地域のまちづくりを推進するため、活動助成を行うほか、まちづくり講座、勉強会・交流会などを実施し、みなさんの活動やつながりを支援しています。まちづくり団体同士の交流の場として、また、地域をより良くするために何かしてみたいと思った方の最初の一步として、ぜひ気軽に参加してください!

参考文献  
国土交通省都市局まちづくり推進課「多様性を備えたクリエイティブな都市へと再生するエリアマネジメント」

## 「NAGOYA都心会議」始動! ~世界を惹きつける都心への大変革~



リニア開業を見据えて、名古屋駅地区から栄駅地区にかけての都心部が一体となって魅力あるまちづくりを推進し、地域経済の活力ある持続的な発展を目指して、令和7年12月2日、民間企業が主導する産官学民連携プラットフォームとして「NAGOYA都心会議」が正式に発足しました。産官学民連携による成長戦略・新たなビジネス環境の創出や、ヒト・コトをつなぐコミュニティの醸成、国内外に広く魅力を発信し多様な人材と機能を都心部に呼び込むことなどを目指し、今後、都心部の魅力向上と国内外から「選ばれる都市」の実現に向けた取り組みを本格的に展開していきます。



# 建築系愛知16大学共通設計競技 「にぎわいの質を問う 久屋大通南エリアへの提案」

建築系愛知16\*1大学共通設計競技\*2は、建築・まちづくりを志す学生から、設定されたテーマ・エリアの今後のまちづくりに向けた提案をいただき、審査員により公開審査・講評を行っております。今回は、「にぎわいの質を問う 久屋大通南エリアへの提案」をテーマに、令和7年12月14日(日)に開催されました。計45作品の提案の中から最優秀賞を受賞した2作品についてご紹介いたします。

\*1 参加大学数を示す \*2 主催:建築系愛知16大学合同企画展実行委員会 共催:名古屋都市センター

最優秀賞  
受賞作品 ①

## Re:Park -地下駐車場の再編による上下と東西を繋ぐUnder-Park-

(名古屋市立大学 岡部 摩周さん 浅野 由也さん 小林 祐大さん 穴戸 佑圭さん 犬飼 大智さん)

### 現状 人工地盤による東西分断

南エリアは、沿道と公園に生じている高低差によって視界が分断され、公園の賑わいが周囲へ波及しにくい状況にある。一方で、このエリアは公共的ポテンシャルが高く、都市中心部において緑に囲われたオープンスペースとして大きな可能性を持っている。

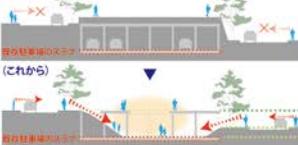
### 提案 東西、上下を繋ぐ新たな人の受け皿

既存駐車場のスラブを活用することで、地下からのアクセスが可能となり、同時に東西方向の視線が連続する。また、並木道に囲まれたすり鉢状の地形へと再編することで、多様な人々の活動を受け止める柔らかな場となる。



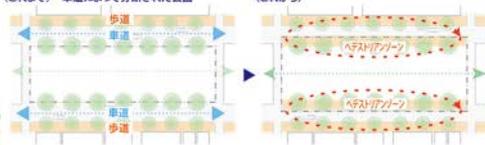
#### Step 1. 立体的に東西を繋ぐ

・既存駐車場のスラブを活用することで、3つのレベルが生まれる。(これまで)



#### Step 2. ペDESTリアンゾーンによる「人のための」並木道

・現状、3車線の道路が人と公園の関係性を断絶させていた。そこで、東西方向の車線を一車線ずつ削減し、歩行者中心のペDESTリアンゾーンを確保することで、公園を回遊でき、人のための並木道を再編される。(これから)



#### Step 3. 人々の拠り所となる「ホワイエ」

・大小様々なスケールの居場所があることで、多様な活動を受け入れる場となり、公園へと人々を引き込む。並木道と同じレベルにある「ホワイエ」は地下1階の活動を促すことができる。



最優秀賞  
受賞作品 ②

## 久屋四次元化構想

(名古屋大学 佐藤 舞千代さん 後藤 和也さん)

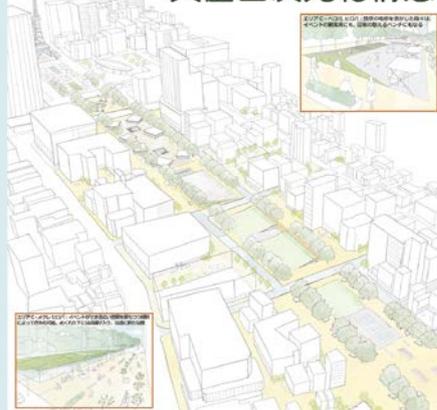
### 現状 日常から孤立した島

- ・イベント時にはにぎわうが、日常は閑散としている。
- ・商業と一体化しにぎわいを生んでいるが、「裏側」も生まれている。
- ・車道による広場と沿道のにぎわいの分断+広幅員による栄のまちの東西分断(平面的分断)、駐車場など地下利用に伴う隆起による分断(断面的分断)が見られる。

### 提案 スーパーブロックと地形操作によって“四次元”でつなげる

<p><b>① 一次元:線</b></p> <p>ウォークアブルな動線と守るべき軸線 車道を減らし、人のための動線を増やしつつも、クヌギ並木は残し南北の軸線は保つ</p>	<p><b>② 二次元:平面</b></p> <p>スーパーブロック 隣接の複数街区を久屋大通りとまとめて一つにし、ヒトや緑の流れが連続し、ビルとビルの間にも入り込んでいく</p>	<p><b>③ 三次元:断面</b></p> <p>地形操作 何もなかった空間に対して、地形の起伏によって産み出さる方向など行き先のきっかけを提供し、多様な使い方を促す豊かな空間へ</p>	<p><b>④ 四次元:時間</b></p> <p>日常/非日常、そして都市更新 イベントと日常という時間による二面性に応えるとともに、沿道のビルの建替え・改修といった未来を見据え、周辺建物のあり方に影響を与えまちを変えていくトリガーとなる</p>
---	--	--	--

### 久屋四次元化構想



最優秀賞・優秀賞作品の詳細は、  
都市センターのHPで公開





＼ 令和7年度 まちづくりびと講座 〵

# 「TOWN/MONEY/WAY-MAKING TALK SESSION」を開催しました！

名古屋都市センターでは、まちづくりに興味がある人・まちづくりを始めたばかりの人に向けて「まちづくりびと講座」を行っています。今年度は、まちづくり活動のためのお金づくり、活動を続ける仕組みづくりについての QUESTION を持ち寄り、考え、話す会を開催しました。

「資金がなく活動を継続できない」「担い手が減り活動が停滞してきた」といったお悩みを持つ方は多いのではないのでしょうか。そんなお悩みを解決し、自分が好きなまちで楽しくまちづくりを継続するための“稼ぐ、続ける”仕組みを考える講座です。講師には、補助金のみならず、事業収益を上げながらまちへの還元を目指す堀江浩彰さんを、ゲストには堀江さんのまちづくりの先輩・古橋敬一さんをお招きし、全3回に渡りお話しいただきました。



仕組みとして“稼ぐ”を組み込まないと  
まちづくりは続かない

講師：堀江浩彰氏  
(Too Much株式会社 代表取締役 他)

すぐに成果を求めるより、弾力性を持たせて  
運用する方がうまくいく場合もある

ゲスト：古橋敬一氏  
(愛知学泉短期大学講師)



## SESSION 1 いい場所は好きだけど、どう続ける?を一緒に考える 2025.11.29(土)

まちづくりは“稼ぐ話”がタブーになりがちだけれど、活動を継続するには“稼ぐ”を仕組みに組み込む必要がある。この日のワークでは、稼ぐ仕組みを考える前に「そもそも自分は何を守りたいのか?それを続けるために何が必要か?」を整理しました。「僕は、自分が好きなことなら少しくまなく行かなくても大丈夫という自信があった。あとで“テーマが悪かった”という思考にならないようなテーマ選びも大事」と話す堀江さん。「義務感ではなく“やりたいこと”をやれているか」という、活動の本質を振り返る時間になりました。



## SESSION 2 まちでの活動を長持ちさせるお金のことを一緒に考える 2025.12.6(土)



稼ぐことは、まちに投資すること。まちでの活動を続けていくためのお金の回し方を思想・実践の両面から考えました。なんと、堀江さんが自ら運営している「ホリエビル」の期ごとの売上金額を1円単位で公開!「顔(人を集める要素)」と「収益装置(お金を生む柱)」を分けて収益構造を考えるという仕組みを、堀江さん自身の経験から学びます。堀江さん「みんな、顔の話しかしない。収益の話をしてない」古橋さん「顔がうまくいったら全部うまくいってるのかも」。ドキッとする言葉をきっかけに、参加者からのお金のお悩みが次々に飛び出しました。

## SESSION 3 続けるための仕事術と、まちへの還元を一緒に考える 2026.1.10(土)

「まちへの還元って結局なんですか?」という問いから始まったこの回。堀江さんが考える還元、それは「日常の小さな“おせっかい”の総量が増える状態」。そんなおせっかいを続けるために、疲弊しないで燃料(お金)を集め続ける具体的な設計術を学びました。

役割を一人で抱えず、何を引き受け、何を手放すかを整理するワークを通じて、自分なりのまちづくりとの関わり方を見直します。終了後も講師のお二人と参加者が膝を突き合わせて語り合う時間が続く、熱のこもった回となりました。



詳細  
レポートは  
こちら!



# まちづくり来ぶらり

第99号

まちづくりライブラリー  
 全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。



## しょうふうはっしょうのところ 蕉風発祥之處

名古屋市の街の中心部、栄に松尾芭蕉の碑があることをご存じですか。

中部電力MIRAI TOWER(旧名古屋テレビ塔)の東北側の草地に「蕉風発祥之處」と刻まれた碑がひっそりとあります。1970年(昭和45年)12月に建てられました。

松尾芭蕉は『野ざらし紀行』の旅の途中、1684年(貞享元年)冬に名古屋に立ち寄り、尾張国の俳諧連衆(山本かへい、おかだやすい、かどうじゅうご、つばいとこく、しゅうへい、たかはしうりつ)と集まり連句をよみました。それらを『冬の日』にまとめています。書名は、各連句の発句(はっく)がいずれも冬の季であるところに由来します。それまで言葉遊びでしかなかった俳諧を初めて芸術の領域まで向上させたと言われる句集です。蕉風ベスト作品集とされる『俳諧七部集』の第一集に位置づけられ、当時の俳諧の人々に「蕉風」という新風を送るものとなりました。後に「蕉風開眼の書」と言われるのはそのためです。巻頭の発句「狂句こがらしの身は竹斎に似たる哉」はこの碑に刻まれています。

『冬の日』の興行場所が「宮町筋久屋町西入ル南側」とあり、現在の中部電力MIRAI TOWER東北前面の脚あたりと推定されています。

松尾芭蕉とゆかりのある場所は他にもあります。『尾張名所図会』の「風月堂と芭蕉」に載っている風月堂が中区丸の内付近にあったとされています。また日本最古の翁塚で芭蕉存命中、唯一で自筆の「千鳥塚」が緑区鳴海町千句塚公園内にひっそりとあります。

このように名古屋には、芭蕉のゆかりの地がいくつかあります。ぜひ探してまちを巡ってみてはいかがでしょうか。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

### ◆参考文献◆

- 『名古屋市中区誌』(2B21-2010)
- 『芭蕉さまと名古屋』(Se-ナ)
- 『名古屋400年のあゆみ』(2B40-2010)
- 『古地図で歩く城下町なごや』(Se-コ)

※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

## 図書紹介

### 『まちづくりを仕事にする 事業と人を支え、伝え、つなげるしくみ』

編著者:全国タウンマネージャー協会  
 出版社:学芸出版社  
 請求記号:Cg-セ

タウンマネージャーは地域ごとの再生の見通しをたて、官民の様々な立場の人々と調整をはかりながら、まちづくりの一端を担う仕事です。各地で活躍するタウンマネージャーの活動を事例とともに紹介します。まちに新しい動きをつくりたい人のヒントになる一冊です。



### 『まちは暮らしてつくれる 神山に移り住んだ彼女たち』

著者:杉本恭子  
 出版社:晶文社  
 請求記号:Cg-ス

徳島県神山町は地方創生のロールモデルだと言われています。この町に移住・Uターンをした女性たちへのインタビューで編まれた本書。一人ひとりの暮らしと地域の人たちとのつながりから、まちの輝きや魅力がつけられていく様子が感じられます。



### 『超入門!ニッポンのまちのしくみ 「なぜ?どうして?」がわかる本』

監修:福川裕一  
 出版社:淡交社  
 請求記号:Ba-F

まちで見かける疑問を先生と小学6年生たちの質問形式の文と図版でわかりやすく解説します。法律、歴史や地形の影響、日本特有のこと、世界共通の普遍的なこと、様々な理由やその問題点を紐解き、大人の知識欲も満たす一冊です。



1

## 令和8年度の 地域まちづくり支援制度活動助成の 募集が始まります！

名古屋都市センターでは、地域主体のまちづくり活動を行う団体向けに、仲間づくりから実践まで、まちづくり活動の段階に応じた助成メニューを用意しています。

### 1. スタートアップ助成

これからまちづくり活動を始めるグループや活動初期の団体、仲間づくりや、まちづくりの最初に向けた助成です。

### 2. 成長支援・実践活動助成 (事前に名古屋市による登録が必要)

活動を広げていきたいという団体に向けて、地域との関係づくりや公共空間を活用した社会実験の実施、まちづくり構想の策定や、その実現に向けた実践的な活動などを支援する助成です。

以上の2つのメニューで、みなさんの活動を応援します。

**令和8年度は4月から募集開始予定です**  
**※助成にあたっては要件があります。**  
**※事前相談必須です。(要予約)**  
**お早めにご予約ください。**

詳しくは名古屋都市センターHP  
 「まちづくり活動助成」のページを  
 ご覧ください。  
 名古屋都市センター  
 地域まちづくり支援制度 活動助成



2

## 登録有形文化財(建造物)の 登録について

歴史的建造物の保存・活用を担う専門家である「なごや歴まちびと」が調査を行った下記の3物件が、2025年7月18日に登録有形文化財(建造物)として文部科学大臣に答申され、官報告示を経て2025年11月17日付で正式に登録されました。

名称	所在地	所有者
はるたけじゅうたくしめおく 春田家住宅主屋	名古屋市中区主税町 3丁目6番地2他	個人
はるたけじゅうたくもんおよびへい 春田家住宅門及び塀		
なごやしえんげきれんしゅうかん 名古屋市演劇練習館 きゅういなほしほしすいどう (旧稲葉地配水塔)	名古屋市中村区稲葉地町 1丁目47番地	名古屋市



春田家住宅門及び塀▲



名古屋市演劇練習館(旧稲葉地配水塔)▶

3

## 機関誌アーバン・アドバンスNo.85発行 特集「新たなライフスタイルと これからのまちづくり」

アーバン・アドバンスは、まちづくりに関わる方々の論文、名古屋のまちづくり情報、名古屋都市センターの研究成果などを掲載しています。

85号のテーマは「新たなライフスタイルとこれからのまちづくり」です。近年、社会環境や価値観の変化などにより、人々の生活様式や働き方などが変わりつつあります。本号では、単身世帯の増加、共働き子育て世帯増加、高齢者のライフスタイル、若者の外出、消費者行動といった観点から新たなライフスタイルに関わるまちづくりの動向や今後の展望などを特集します。

※本誌は名古屋都市センター12階のまちづくりライブラリーにて販売(定価700円)しています。  
 (令和8年3月末発行予定)



4

## 名古屋都市センター賛助会員の募集について

名古屋都市センターの設立趣旨に賛同し、センターの活動を支援して下さる令和8年度の賛助会員を募集しています。

当センターの活動にご理解・ご支援いただける企業・団体・学校・個人の皆様のご入会をお待ちしております。

### 《賛助会員の種類》

- 法人会員(年会費 1口50,000円)
  - 学校法人(年会費 1口50,000円)
  - 個人会員(年会費 1口5,000円)
- (期間:令和8年4月1日から翌年3月31日まで)

### 《会員特典》

- 機関誌「アーバン・アドバンス」、広報紙「ニュースレター」の送付
- 都市センター主催、企画のセミナー等の優先案内(まちづくり講演会、施設見学会等)
- まちづくりライブラリーの利用を優待
- 貸会議室・ホールの利用を優待 ※法人会員のみ
- 都市センター出版物の割引販売
- 税制上の優遇措置

詳しくは名古屋都市センターHP  
 「賛助会員」のページをご覧ください。



名古屋市内の文化財等をご紹介します。

# 歴史 史を巡る まちを巡る



歴史まちくんとおとも



## 文化のみち二葉館(旧川上貞奴邸)【登録有形文化財】(一部) 名古屋市東区榎木町3丁目23番地

旧川上貞奴邸は、実業家・福沢桃介(1868～1938)が、女優・川上貞奴(1871～1946)のために、1920年頃、東区東二葉町(現在の白壁三丁目)に約2,000坪という広大な敷地を取得して建てた邸宅です。当時は「二葉御殿」とも称されました。しかし貞奴がこの邸宅で暮らした期間はわずか約4年と短く、その後、敷地は分割して売却され、建物も改変を重ねることとなりました。

2000年に残された建物の寄付を受けた名古屋市は、東区榎木町に土地を取得し、当時の写真や資料をもとに復元整備を行いました。そして2005年より「文化のみち二葉館」として一般公開しています。館の前の道には、早咲きのオオカンザクラが街路樹として植えられており、毎年3月に開催される桜まつりには、多くの人々にぎわいます。

館内には見どころが数多くありますが、なかでも目を引くのが、館内各所に配された美しいステンドグラスです。初夏の草木や踊り子(いずれも杉浦非水のデザイン)、槍ヶ岳を思わせる山並みなどが描かれ、差し込む光によって時間帯ごとに異なる表情を楽しむことができます。

また、1階大広間に設けられた曲線美が印象的な螺旋階段も必見です。階段を上った2階では、坪内逍遙をはじめとする東海地方ゆかりの作家に関する資料を常設展示しているほか、企画展も随時開催されています。最新の展示情報については、公式ホームページなどでご確認ください。

文化のみち二葉館公式HP  
<https://www.futabakan.jp/>



《参考文献》  
「登録有形文化財 旧川上貞奴邸復元工事報告書」協同組合伝統技法研究会編、名古屋市発行  
「プロジェクト紀行 町並み保存・覚書 -名古屋「文化のみち」前史-[6] 二葉館(川上貞奴邸) ...木曾川発電のロマン」池田誠一著、<https://www.chubudenkikyokai.com/archive/project/>

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

 **名古屋都市センター**  
Nagoya Urban Institute

〒460-0023  
名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル  
TEL 052-678-2208  
FAX 052-678-2209  
<https://www.nup.or.jp/nui/>

ISSN:1341-6820



この印刷物は再生紙を使用しています。

利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場  
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)  
【12階】まちづくりライブラリー  
火～金曜日: 10:00～18:00  
土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00  
※休館日: 月曜日(祝休日の場合はその翌日)、  
年末年始  
まちづくりライブラリーは、  
上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館



SNS  
やっています!

